

## 第2部 就業力 GP 採択報告

平成22年度 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力 GP)」

# 学問・世界・仕事への リンクが育む就業力

—専門教育と就業力をつなげるカリキュラム  
並びに個別学習マップの構築—


神立 孝一

(創価大学経済学部学部長)

## はじめに

経済学部の神立でございます。今日は、お忙しい中おいでいただきまして大変にありがとうございます。私からは、これまで経済学部で取り組んでまいりました就業力 GP の内容を少し紹介させていただきながら、最終的には創価大学全体の就業力といえますか、就職の力が伸びていけばいいというその願いを込めまして、事例紹介になりますが発表をさせていただきたいと思います。

まず、この GP の正式な名称はタイトルに出ていますように「大学生の就業力育成支援事業」いわゆる「就業力 GP」といわれるものです(スライド1)。本学でこの GP に申し込みいたしましたのは経済学部が中心になりまして、キャリアセンターの方々とも手を取り合って中身を考えてきたものでございます。テーマが「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力」とうことで、サブタイトルで、「専門教育と就業力をつなげるカリキュ

 創価大学

Discover your  
potential

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力 GP)」

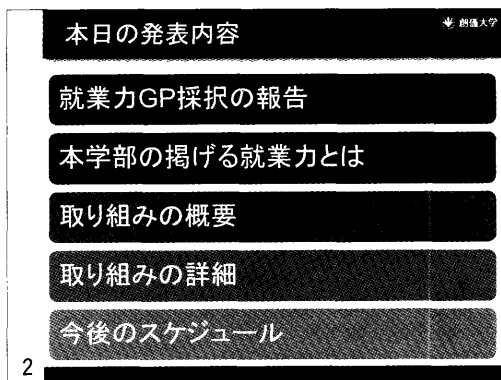
学問・世界・仕事への

リンクが育む就業力

—専門教育と就業力をつなげるカリキュラム  
ならびに個別学習マップの構築—

創価大学 経済学部  
学部長 神立 孝一

1



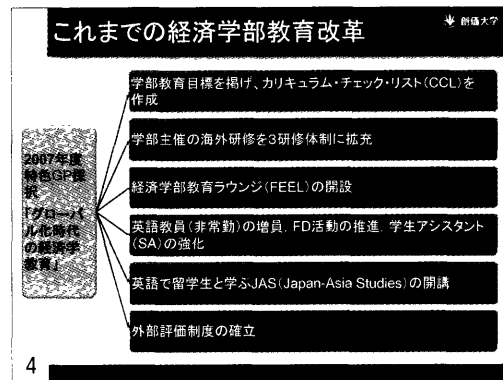
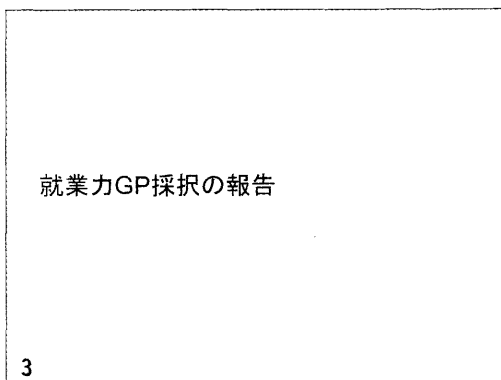
ラム並びに個別学習マップの構築」。このテーマを掲げて申請をおこない、認められたものでございます。

本日の発表の内容であります。就業力GP採択の報告、本学部の掲げる就業力とは何か、具体的な取り組みの概要、取り組みの詳細、今後のスケジュールという順でお話をさせていただきたいと思います（スライド2）。もともとこの就

業力GPというのは5年間の計画で認められたものでありますので、今後は、経済学部から全学への展開ということを考えて、いろいろなスケジュールを組んでみました。それでは具体的に話をさせていただきます。

## 1. 就業力GP採択の報告

まず、就業力GP採択の報告ということとなります（スライド3、4）。経済学部では2007年度に「グローバル化時代の経済学教育」というテーマで「特色GP」に採択されました。具体的な内容は皆さんよくご存じのIP（インターナショナルプログラム）です。つまり、英語による経済学教育ということで、英語のみを使って授業をしていく。それを体系的に組み上げたグローバル化時代の授業ということで採択されました。3年計画で前学部長の長谷部先生の強力なリーダーシップによりまして、最終年度の2009年度まで、これが続きました。GPが採択されますといろいろと良いことがありましたので、もう一度経済学部としてもチャレンジしたいということになり



ました。そこでスタッフ全員でいろいろ相談をいたしました。だいたい2009年の秋口くらいから、次はどのようなGPを申し込もうか、という議論のなかから、今回の就業力GPのテーマが浮かび上がってまいりました。そうした流れから、昨年11月に申請の準備を開始したのです。

採択された中身ではありますが、学部教育目標を掲げ、カリキュラムチェックリスト(CCL)を作成するということでもあります。経済学部の教育目標というのはこれまでもいろいろな形で公表してきておりますが、

- ① 体系的な経済学教育を通して問題発見・解決能力、論理的思考能力を備えた人材を育成する。
- ② 英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。
- ③ 人間主義に基づく経済学教育を通して、人類の平和に貢献し、世界に通用する人材を育成する。

これが経済学部の3つの目標です。それに基づきまして、様々な形でカリキュラムを考えて参りました。さらに、カリキュラムチェックリストを全科目にわたって作成いたしました。これについてはまた後で詳しくご説明させていただきたいと思います。それから、学部主催の海外研修を3研修体制に拡充しました。これについてもまた後で詳しくご説明いたしますが、3つの研修というのは、具体的にいいますとシンガポール、カリフォルニア、マンチェスター。この3つの海外研修を設定いたしました。それから、最も活用させていただいておりますのが、3つ目の経済学部の教育ラウンジ、“FEEL”でございます。A棟の2階に経済学部の学生たちが自由に出入りをして、そこで様々な勉強ができる。そういうラウンジを作って頂きました。そこで今年話題になりました、経済学能力検定試験の大学対抗戦で6連覇を果たしたメンバー。このメンバーたちが大いにこのラウンジを活用したしまして、学生同士で相互に経済学を学び合うということをしております。現実には我々、教員サイドは彼らに対して特に何かしたわけではなく、先輩が後輩にいろいろな形で教えていく、ということを果たすことができました。このラウンジはありがたく活用させていただいております。

それから英語教員の増員、FD活動の推進、学生アシスタント、SAですね、これを強化いたしました。特に1年生の基礎演習ですけれども、各ゼミ全員SAを付けるということでSAの強化を図ってまいりました。それから、英語で留学生が参加して、一緒に授業を受けるという形のJASというプログラム、“Japan-Asia Studies Pro-

gram”を開講いたしました。ここでは留学生向けに日本の経済をはじめ、様々なことにつきまして英語で教育を行っております。したがって、日本人の英語ができる学生も参加いたしまして、留学生と共に学んでおります。日本にいながら海外で学んでいるのと同じ体制をとることができる。こういうこともやってきました。

それから外部評価制度の確立でございますが、2007年度のこの特色 GP の採択に関して外部評価をお願いしたのは、明治大学の安蔵先生、秋田国際大学の小山内さん、ジブリの社長の星野さん。この3名の方々に外部評価委員をお願いいたしまして、様々な点からこの特色 GP についての評価をしていただきました。そこでまたいろいろな意見がでまして、それをさらに次の改革へつなげていこうということで、現在も進めている最中でございます。

さて、「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力」ということで、この就業力の申請をしてきたわけですが、具体的にはこの就業力 GP 採択の一つの柱が、学部教育と連動するキャリア教育の実践ということでもあります（スライド 5、6）。この就業力育成支援事業の審査結果というのをいただきました。この審査結果で、我々が申請いたしました、プログラムの優れた点として認めていただいたことが 2 点ございます。

まず1点目は、本事業の趣旨、つまりこれは文科省の持っている就業力の事業ですね、その就業力 GP の趣旨と、学部教育目標や取組の内容が合致しており評価できる。こういう点でございました。それからもう一つ。取り組みのいくつかが専門科目と連携しており、取り組みの一つ一つが体系だっていることから、専門科目とキャリア科目が分断されずに接続されている点が高く評価できる、ということでした。実際の専門教育とキャリア教育がどのように結びついているのかという点ですね。そここのところに我々も随分苦心したわけですが、そこをうまくまとめられたということで評価を

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業  
(就業力GP)」

◆ 創価大学

学問・世界・仕事への  
リンクが育む就業力

一専門教育と就業力をつなげるカリキュラム  
マップならびに個別学習マップの構築一

5

創価大学経済学部:就業力GP採択

● 創価大学

学部教育と連動するキャリア教育の実践

- ・本格的に就業力育成に力を入れていく

6

いただいたようでございます。ただ、それに対して改善を要する点というのはいくつかございました。具体的にいきますと、成果目標について、より具体的な数量的目標の設定が求められる。つまり、成果をよりわかりやすい数字で示せ、ということです。より詳しく説明せよということで、我々としては随分その申請書の中に、いろいろな具体的な数字を盛り込んだのですが、まだそれでも足りないのかな、というのがこれを頂いた時の実感でした。そういうご指摘がございました。

それから企業と共同で作る科目、これはまた後でご説明いたしますが、「社会貢献と経済学」の講義について、外部講師だけでなく専任教員が積極的に参加することを期待したい、という指摘もございました。これは今回の GP の目玉の一つで、外部の実際に社会で働いているさまざまな方々との協力で科目を設定し、就業力をつけていくということを求められていたものですから、我々もこれを踏まえた上で、「社会貢献と経済学」という講義を設けてやっていこうとしたわけですが、もっともっと専任の教員が、こういった実際の就業力を測っていく、強めていく、高めていく、そういう授業に積極的に参加してもらいたい、こういうメッセージだなと受けとめております。あとは就業力測定テストについてですね。これは、期待していますよ、ということでおはなしを頂きました。

こうしたことをふまえつつ、学部教育というものと連動するキャリア教育をどう実践していくかということが、就業力 GP の一番のポイントであると思います（スライド 7）。その上で、具体的な新しい取り組みとして私たちが考えたものがここに掲げたもので、一つは、企業関係者との共同で作る実学科目「社会貢献と経済学」。これは 1 年次の後期に新設しようということで準備を始めております。来年度の後期からこの科目を開始したいと思っております。それから 2 年次の進路の仮決めと希望進路調査、就業力測定テストの導入ということで、これはキャリアセンターの方々にお聞きいたしますと、4 年間のキャリア教育のなかで最もエアポケットになるのが、2 年生の特に前期である、と。2 年生の前期に、やはり何もしないで過ごしてしまう、そういうパターンが多いので、ここで何らかの形で、就職あるいはキャリアに関する関心を高める、そういう仕組みができないだろうかということで、2 年生の前期にスポットを当てて、こうい

#### 創価大学経済学部：就業力GP採択

創価大学

##### 具体的な新規取組

- ・企業関係者との協同で作る実学科目「社会貢献と経済学」(1年次後期)新設
- ・2年次の「進路の仮決め」と「希望進路調査・就業力測定テスト」の導入
- ・「キャリアのための個別学習マップ」(My Map)の開発
- ・海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充

った希望進路調査、進路の仮決めを導入いたしました。その上でキャリアのための特別学習マップ、これはまたあとで説明させていただきます。我々はこれを「マイマップ」と名付けました。学生個人個人が自分の進路のための地図、方向性、これを作るということで「マイマップ」というふうに名づけたのですけれども、こういったマップを開発していこう。

それから、海外キャリア研修の実施。単なる語学研修でなく、むしろキャリア研修として国内と海外のインターンシップを拡充していこうということで、これを考えていくことにいたしました。

## 2. 本学部の掲げる就業力とは何か

実際に本学部の掲げる就業力というのは（スライド8、9）、一体どういうものなのかということですが、この就業力が出てきたその背景は言わずもがなのことですが、就職問題でございます。実際に就職が、年々厳しくなっているのはご承知の通りだと思います。この就職というのは厄介なもので、その年その年の景気の影響で左右されるのです。景気の良い時は、こんな能力でこんな会社に入っちゃっていいの、というような学生が何人もいました。そのかわり、景気が悪くなってくると、こんなに高い能力があるのに、この程度の仕事にしか就けないのかと、本当に悔しい思いをする場合があります。そういうことで社会の情勢に左右されてしまうわけですが、現実にはこの数年間経済学部で就職率というのを見てみますと、2007年の段階では91.6パーセントが就職できていたわけです。それが2008年になりますと、89.3パーセント、2009年になりますと、84.6パーセントになり、昨年は79.5パーセントまで下がってしまった。これはたぶん経済学部だけの問題ではなくて、全学部、本学全体

本学部の掲げる就業力とは

8

### 今、なぜ「就業力」か

★ 所蔵入学

- ・ 問題の背景
  - － 就職問題
  - － 雇用システムの変化と成立基盤の動揺
  - － 新しい大学教育のあり方が模索

9

の問題でもあるのだらうと推測できます。もっといえば、社会全体の就職率が下がってくるという、そういうような状態になってきている。そこで就業力というのを考えていかなくはいけないし、そうした力を付けなければいけないということで、このGPが始まったのだらうと思います。特に、雇用システムが変化し、各社の経営基盤が非常に動揺しておりますので、なかなか就職というのも難しい。先ほど寺西先生の方からもご指摘ありましたけれども、3年生の秋口から就職活動が始まって、4年生の前期はもう授業にならない。こういうような状況で、本当にこれでいいのだらうか、と思いつつ私たちも実際に教えているわけですが、こうした就職活動の在り方などは、社会全体の問題だと思います。それから、こうした就業力を含め、新しい大学教育の在り方がいろいろな形で模索をされているということが、この就業力の問題の背景にあるのだらうと思います。

この社会の変容に対して、日本学術会議の答申ですね。大学と職業の接続の在り方という項目が設定されておりまして、その中に次のような文言が入っております（スライド10）。

「大学と職業の接続の在り方を改善することであり、端的にそれは大学教育の職業的意義を向上させることが重要」である。

これはよく読んでもなかなか理解できないところがあって、大学教育の職業的意義を向上させるというのは一体どういうことなのだらう。これは先ほどの専門職の教育ということになるのでしょうかね。僕らも今考えている最中で、よくわからないのですが、実際には職業について学生にもっと考えさせてもらいたい、というような要求なのかなとも思えます。これは多くの先生に様々な形でご議論いただければと思っております。

それからもう一つは、大学は学生の質保障に責任を持つ。これが学士課程教育の構築に向けてというなかで出てきています。多様性と標準性の調和ということで、大学は卒業生に対してこの程度の力がついている、こういうような形のものをもっている。大学でそれを全部保証しなさいという流れになっておりまして、そういう意味では非常に何といいますか、堅苦しいような、あるいはいろいろな形で考えを改めていかなければいけな

**今、なぜ「就業力」か**

★ 創価大学

**社会の変容に対して**

- 「大学と職業の接続の在り方を改善することであり、端的にそれは大学教育の職業的意義を向上」させることが重要
- 日本学術会議「大学と職業の接続の在り方」

**大学は学生の質保証に責任を持つ**

- 多様性と標準性の調和
- 文部科学省「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

10

創価大学の建学の精神

人間教育の最高学府たれ

• Be the highest seat of learning for humanistic education

新しき大文化建設の揺籃たれ

• Be the cradle of a new culture

人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ

• Be a fortress for the peace of humankind

11

経済学部教育目標と就業力

就業力の構成要素

問題発見・  
解決能力と  
論理的  
思考力

グローバル  
社会で役立  
つ、コミュニ  
ケーション  
力

明確な  
職業意識

12

いような、様々なことが突き付けてられていて、本当に昨今大変だなあと。愚痴になってきますけれども、そう思うわけでございます。

創価大学の建学の精神はこの3つでございます（スライド11）。いわずもがなでございますが、我々はこの建学の精神に基づいて、実際に大学の教育、そして大学の目指すべき方向ということで、人間教育の最高学府たれ、新しき大文化建設の揺籃たれ、人類の平和を守るフォートレスたれ、この3つの指針を目指して、大学の教育を進めていく、また、人材を育成していくということになっております。これをベースにして一体何ができるのか、これを目指していくためには何が必要なのか、ということになってくると思います。

その中で、経済学部教育目標と就業力ということで（スライド12）、我々経済学部のスタッフが、先程申しましたけれども昨年の11月からこのGPの採択のための委員会といいますかワークショップを作りました。教員は学部全体で21名です。21名の中で、約7名から8名がこの申請に携わって、多い時は、半分の先生に参加して頂きまして、中身を考えました。いろいろ考えた末に出てきたこの就業力の構成要素というのは、3つにまとめられるのではないか、ということで最終的にこういう形になりました。

一つは、学部の教育目標にも掲げてありますが「問題発見・解決能力と論理的思考力」。これを付けてもらうための何らかの形での講義、カリキュラムを考えていかなければならないだろう。

それから、二つ目として、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力、これを目指そうと。これは特に経済学部では、先ほどから申し上げております、英語教育ですね。英語の力をつけさせよう、ということでIPを中心に英語で経済学を教える。そういうようなことで「グローバル社会で役立つコミュニケーション力」というのを



掲げました。要は英語が使えるのはあたりまえ、というような感覚で、むしろ重要なのは、何の話をするのか、ということになります。英語を使って何を相手に伝えるか。ただ単純に英語力をつけるということではなくて、英語で何を話すのかということも含めた上でのコミュニケーション能力ということで、設定したものです。

それから「明確な職業意識」。これも一人ひとりが職業とは何なのか、仕事とは一体何のかということを考えてもらうための仕掛けを作っていこう。これらを就業力の構成要素として取り組んでいこう、ということに致しました。

### 3. 取り組みの概要

取り組みの概要でございますが（スライド13、14）、まず学問へのリンクということで、初年次教育、体系的専門教育、数学教育、成績不振者の面談、こういうものがここにはいってきます。これは、言ってみると体系的な経済学教育を通して就業力を育成していく、醸成していくと言いますか、そういうことはかっております。

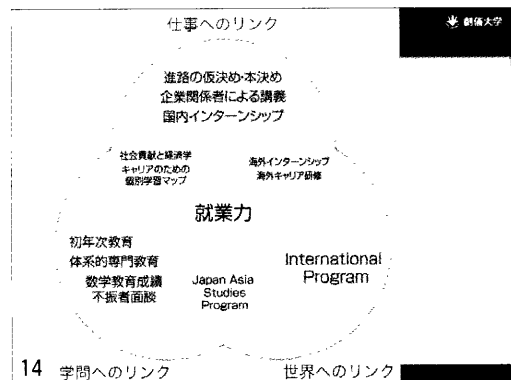
それから、世界へのリンク。これはIP（国際ナショナルプログラム）が中心であります。英語による経済学教育に重点を置いた一つのリンクでございます。

それから、仕事へのリンク、ということで進路の仮決め、本決め、それから企業関係者による講義、国内のインターンシップ。これは明確な職業意識を育てるため、という目標で3つのリンクを考えて、それぞれ重なり合っているとところに様々なものをいれて考えてみたわけでありまして。仕事へのリンクと学問へのリンクの重なりが、「社会貢献と経済学」それから「キャリアのための個別学習マップ」。

そして、仕事へのリンクと世界へのリンクの重なりあっているところが、海外イン

#### 取り組みの概要

13



14

ターンシップと海外キャリア研修。そして、世界へのリンクと学問へのリンクで、先程ご紹介を致しました「JAS (Japan Asia Studies Program)」ですね。留学生と一緒に経済学を学んでいく、というこういう概念図でございます。

こういう概念を元に、カリキュラムを検討し次の図（スライド15）のような形に致しました。経済学部では、必修科目

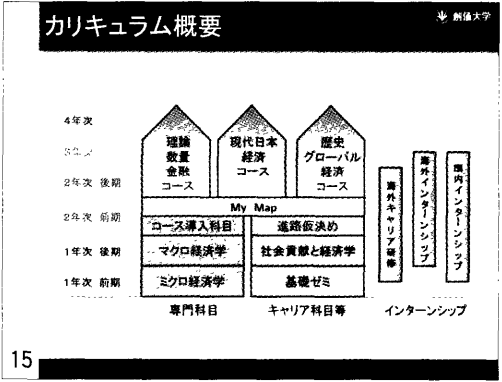
が4科目です。1年生の前期の「基礎ゼミ」と「ミクロ経済学」。1年次の後期に「マクロ経済学」と「経済と歴史」という経済史系列のものが必修で入っております。

問題になるのはキャリア科目等としているものです。「基礎ゼミ」で何を養おうとしているのかと言いますと、一つは、タイムマネージメント等の生活についての癖といますか、きちんと姿勢を整えること。さらにライティングですね。きちんと日本語が書けること。もう一つはプレゼンテーションができる力をつけさせたい。これについては基礎ゼミで同一のシラバスで、統一の内容で行う、ということを基本原則にしております。ただ、それぞれ先生方の個性もありますので、全く1から10まで一緒というわけにはいきませんが、それぞれ一つの基本的路線に則って授業をやっていただく。そういう形式を取っております。そのなかで、ポートフォリオを利⤿させていただきながら、セメスターの目標、それから4年間の目標、そういうものをこの基礎ゼミで、学生の皆さんに立てていただき、それに基づいて、様々な議論をしていく。それを踏まえた上で、今回改めて新設をいたします「社会貢献と経済学」で、現実に社会の中で仕事をしている方々の話しをきかせて頂いたり、実際に大学のなかでする学問が現実社会でどうい⤿うように生きていくのか、ということ⤿を学んでいただく。そういうようなことを「社会貢献と経済学」でやっていきたいと思⤿っております。

その上で、1年生の終りの段階ですね、1年生の終わりから2年生にかけての段階で、この進路の仮決めのための仕掛けを作っていこう、と思⤿っております。この仕掛けというのが、実際にはこの取り組みの中の就業力テストという形になっていきます。

その他カリキュラムの専門科目の方と致しましては、コースの導入が2年の前期から始まります。

コースというのは、2年の後期から取るわけ⤿でございますが、3つのコースを設けてあります。「理論数量金融コース」、それから「現代日本経済コース」、「歴史グロ



バル経済コース」、というこの3つのコースのなかから、それぞれ学生が選んで、そのなかで必修科目、選択必修科目等々を履修していく、という形になります。したがってコースを選んでいく際に、実際に自分の社会に出てからの姿を想定しながら、こういった科目を取ればいいのか、どういう科目を取ればどのような力が付くのか。そういうようなことをよく理解した上でこのコースを選ぶ。そのためのもうひとつの仕掛けが、マイマップということになります。

それからこうした授業科目と並行して、「インターンシップ」のプログラムを設けております。一つ目が海外キャリア研修です。この先、若干変化するかもしれませんが、1年生の夏にシンガポールへ研修に参ります。1年生の最後の段階の春、2年生にかけての春休みに、カリフォルニア研修というのを設定しております。それ以外に、イギリスのマンチェスター大学を中心にした2ヶ月間のインターンシッププログラムを設けてあります。これは1ヶ月間語学研修を受け、1ヶ月間実際にイギリスの各企業等でインターンシップ等を行うというものです。それぞれ希望する学生さんに参加して頂きながら、実体験で様々な海外の企業、あるいは海外の公共機関を、実際に自分の目で見てもらって、自分の職業意識につなげていく、そういうようなシステムを作り上げております。国内インターンシップについては、キャリアセンター中心に設定しておりますインターンシッププログラムに則って、経済学部学生もそれに積極的に参加していく、というような形になっています。

## 4. 取り組みの詳細

取り組みの詳細になります（スライド16）。

一つめは、これまでも触れて参りました企業関係者との共同で作る科目、「社会貢献と経済学」の新設ということでございます（スライド17）。学習内容は、社会の中で実際に、大学で学ぶ経済学がどのように役に立つのか。それを具体的な事例を通して学習しよう、ということを目指しております。経済学にもいろいろな科目がございます。細分化されておまして、理論経済学からはじまって、統計学もある、それから日本経済論、ある

取組の詳細

16

取組①企業関係者との協同で作る科目  
「社会貢献と経済学」の新設

西條大学

## 学習内容

- 社会の中で経済学がどのように役立つかを具体的な事例を通して学習する
- 2年次のコース選択の導入として、経済学部専門科目がどのように仕事と結びつくか(学問と仕事のリンク)を学ぶ

17

取組①企業関係者との協同で作る科目  
「社会貢献と経済学」の新設

西條大学

## 特徴

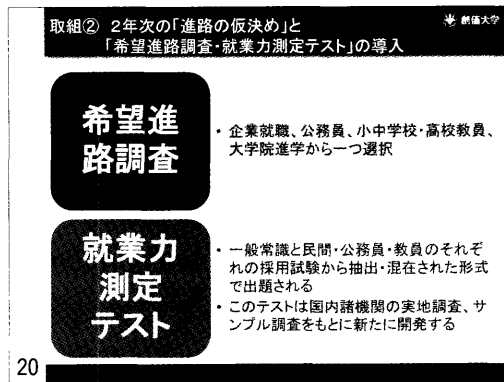
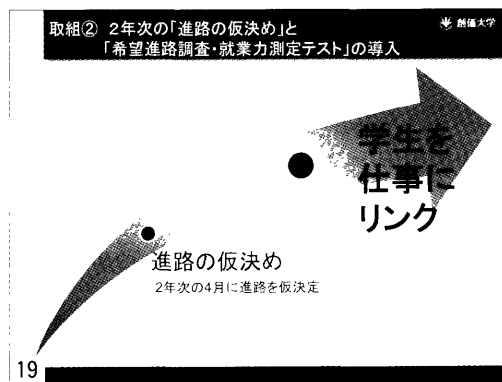
- 1年次後期の科目
- 追加的プログラムとして受講学生を対象としてOB・OG懇談会を開催
- 科目の必修化を目指す

18

いは財政学、またいろいろな国際関係のものというように、様々なものがありますが、その細分化された科目、それ自体がどのような形で実際に社会の中で役に立つのか、ということに結び付けていきたい。そのきっかけにしたい、というのがこの「社会貢献と経済学」という科目になります。特に2年次のコース選択ですね。先程示しました3つのコースですが、その導入として経済学部専門科目がどのように仕事と結びつくのか。いわゆる学問と仕事のリンク、これをきちっと学んでもらいたい、というのがこの狙いでございます。

その特徴でございますが、1年次の後期の科目として設定したい(スライド18)。この段階で設定をしておかないと2年生のはじめの段階で、いわゆる先程申しましたエアポケットみたいなところに学生が行ってしまうと、だいたい出遅れるというのですね、キャリアセンターの方々に聞きますと。したがってそういう意識を持ち続けていられるように、1年の後期にこれを設定していきたいと考えています。追加的プログラムとしては、受講学生を対象としてOB・OG懇談会を開催していく。いろいろな企業で働いている、先輩の話を聞こうではないか。本学の学生は、先輩たちのお話が一番入るようですね。我々がいろいろなことを言ってもなかなか聞いてもらえないのですけれども、OBが来て一言いうと、「ああ、そうですか〜!」、ということで非常に素直に聞いてくれるのですね。ですから本当にできればOB・OGを中心とした何かをやりたいという、そのような印象を持ってしまうわけですが、OB・OG懇談会も開催していきたい。さらに、これはカリキュラムの編成変えの時にしかできないのですが、何とかこの科目、「社会貢献と経済学」を必修化できないかと考えています。必修化の方向へ持っていけたらいいなと思っております。今後のカリキュラムの編成の段階で議論を詰めていきたいと思います。

2番目ですけれども、2年次の進路の仮決めと希望進路調査、就業力テストの導入

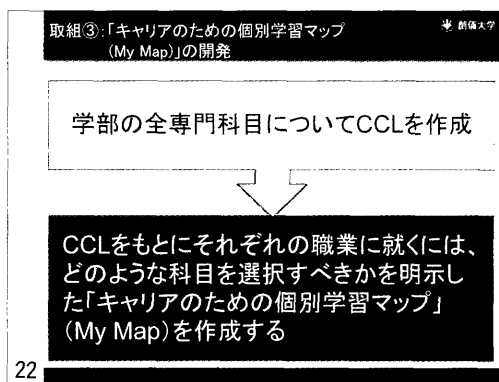
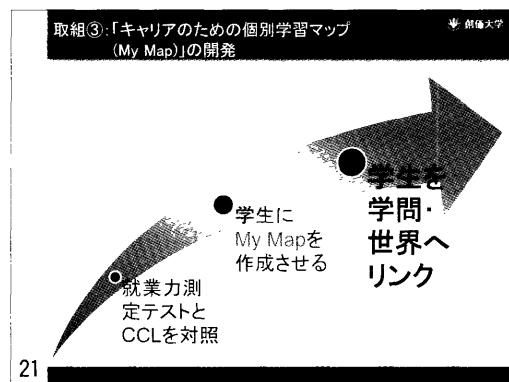


ということで、進路の仮決めに2年次の4月にしてもらおう、ということです（スライド19、20）。その進路の仮決めにしてもらって学生を仕事にリンクさせていく。すなわち学生の一人ひとりが仕事というものを念頭に置きつつ、実際に授業を受けていく。そういう方向に持っていきたいと考えております。2年次の進路の仮決めと、希望進路調査、就業力テストというものがどういうものなのかといいますと、まずは、希望進路調査。今の2年生の4月の段階で、一人ひとりの学生がどういう方向に行こうと考えているのか。企業の就職なのか、公務員なのか、あるいは小中学校・高等学校の教員を目指すのか、大学院の進学なのか。こういうなかから、先ず自分がどうありたいのかという希望をとる。これが一番重要で、この時の調査によってその後の学び方が変わってくるだろう、と思っております。それから就業力測定テストですが、これは「一般常識と民間・公務員・教員のそれぞれの採用試験から抽出・混在された形式で出題されるテスト」です。このテストは「国内諸機関の実地調査、サンプル調査を基に新たに開発する」という事になっているのですが、言うのは簡単ですけど、実際に理想的な形にするのは非常に難しい。これが一番頭を悩ましているところです。どうしてかといいますと、いわゆる就職試験のためのSPIの練習をするということでは全然意味はないし、自分がどういう職業に向いているのか、自分がどういう適性なのかということを先ず認識しなければならない。そうなりますと、実際にはいろいろな企業の、こういうテストをやっている会社の方々から、様々なプレゼンをお聞きしたのですが、大半が自己申告型なのですね。自分がどういう人間なのか。こういう場合には自分はこうする、というようなことを、自分で、自己認識で、自己申告で答えて、その上で、あなたはこういう適性ですね、というのが出てくる形のもので。ですからこの自己申告だけで本当にその人の向いている職業が限定できるのかと。方向性が決められるのか。こういう疑問が生じます。もうひとつは、これが

番多いと思えるのですが、「自分はこうなりたい」、「こういうふうに行きたい」と願っていても、やっていくには当然必要な力があります。その必要な力を自分で認識していない。夢は大きく、力はない。力が無いのに夢は大きい、というやつですね。「私は国際的な機関で働きたいんです！」と言いながらあまり英語ができないとかですね、そういうのを客観的に示して、本人がどの程度の力なのか、ということをも本人が自覚しない限りは、どうにもならない。一つは自己申告の形で適性を判断する、ということで良いのですが、それ以外に、客観的に今の自分の力がどの程度あるのか、という側面からも測定できるテストはないか。そういうことで、いろいろと探したのですが、なかなかそれが見つかりません。見つからないのだからしょうがない、自分達で作るか、という話しになるのですが、これがまた作るということになりますと、過去のいろいろなサンプルとか、過去のデータが無いと決して上手くはまっていきませんので、そういうことも踏まえつつ、今ちょっとこの就業力測定テストというのをどういう形で、どういうものを使おうかと悩んでおりまして、今年度はパイロットケースで、1年生にやらせよう、と考えております。1年生の、来年1月の期末試験の終わりぐらいに、実際に実施して、そのサンプルを見て、どういう形にしようか、ということをも今後、来年度以降、新たな就業力測定テストというのを考えていきたいと思っております。

これが今回のGPにおける、大きな一つの目玉なのですが、その上で自分の現状を認識し、その認識した上で自分の欠けている力をどういうふうにつけていくのか。どのようなことをやっていけばいいのか、ということをも一人ひとりに自覚をしてもらう。そういうシステム、そういう仕掛けになっております。

今度は3番目の、「キャリアのための個別学習マップの開発」ということになりますが（スライド21、22）、就業力測定テストをした上で、カリキュラムチェックリス



キャリアのための個別学習マップの開発については、先程から申し上げておりますとおり、学部の全専門科目についてカリキュラムチェックリストを作成致しました。このカリキュラムチェックリストを基に、それぞれの職業に就くにはどのような科目を選択すべきかを明示した、キャリアのための個別学習マップ。これを作成いたします。これが3番目の取り組みになります。すなわち、それを少し概念的なまとめに致しますと、先ずカリキュラムチェックリストが作成されます。実際にはもう作成されました。ただしこれはその年その年にいろいろな形で手をくわえていかなくてはなりませんし、学部全体のカリキュラムチェックリストを見て、いろいろな力があるのですけれども、その力を全部つけさせるだけのカリキュラムになっているのかどうか、というのもチェックしなければならないと思います。言ってみれば教員の意識改革、FDですね。これをもたらすもので、それぞれが自分の授業でどういう力をつけてもらえるのか、というのを考えるための一つの手立てになっております。

それから「カリキュラムマップ」となっていきます（スライド23、24）。カリキュラムの全体像、学部を目指す人材像をカリキュラムマップと言っているのですが、実際には「カリキュラムポリシー」ですね。いわゆる3つのポリシーをきちんと示して、3つのポリシーに基づいてさらに「マイマップ」、すなわち個々の学生の希

[illegible]

望進路、現在の実力に応じた実習プラン、こういうのを一つひとつ考えてもらおうと。考えていくためのこの一つの日安と言いますか、考えていくための材料が、「進路仮決め」とうものになる。そして「進路希望調査」、「就業力測定テスト」、ということになっていきます。実際に経済学部で使っているカリキュラムチェックリストは、上の段に「学上力」、「細目」。右側には科目名が示されており、どういう力がつくのか、ということで、「経済理論の基礎を習得する」、「学習した理論を使って現実の経済事象を考察できる能力を培う」、という箇所に丸印が記されて、この科目を履修すれば付けられる力が示される。そして細目のところには具体的な力の中身、経済学部の教育目標に合わせた中身が掲げられています。たとえば、経済学部の教育目標、「体系的な経済学教育を通して問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する」。その中で一番が知識と理解、二番が汎用的技能、こういうようなことで、この中身が1番の括弧に、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」。その中で細目は、「現代世界の社会問題について適切な知識を持っている」、「現代日本の社会問題について適切な知識を持っている」、「人類の文化歴史について適切な知識を持っている」、というようなものが並んでまいります。その並んでいるところの中で、この科目を取ればどういう力が付くのか、ということで、それぞれ丸印と二重丸を付けてあります。ですからこの科目を履修して単位を取ればこういうような力が付くという。これがカリキュラムチェックリストで、このカリキュラムチェックリストが全科目にわたって示されているわけですね。

これを基にして、学生自身が、先程申しました進路の仮決め、いわゆる就業力測定テスト等で出てきた結果と、自分が目指すべき様々な職業に必要な力と、そのギャップをその授業の中でカリキュラムチェックリストを使って埋めていく。こういうような形ですね。これを狙っております。このカリキュラムチェックリストは非常に時間がかかりましたけれど、自分達の授業がどのような中身になるのか、実際どういう力を付けさせれば良いのか、それを考えるためには非常に役に立ちました。経済学部の先生方には本当に時間をかけて作って頂きましたけれども、やっぱり作ってみて良かったなと思っております。

取り組みの4番目（スライド25）。海外キャリア研修の実施、及び国内海外インターンシップの拡充、ということですが、海外キャリア研修をスタートさせます。これは明年2月の末から3月にかけてのカリフォルニア研修から、キャリア研修と、きちんとした形でキャリアのための研修ということでリスタートしていきたいと思っております。つまりこれはIPの研修を更に発展させたものであります。それから、現在



取組④：海外キャリア研修の実施および  
国内・海外インターンシップの拡充

**海外キャリア研修をスタート**

- ・IP海外研修をさらに発展

**国内・海外インターンシップ  
の受け入れ企業を拡充**

25

取組④：海外キャリア研修の概要

**約25時間事前研修を実施**  
グループリサーチを実施、訪問先企業・訪問国の経済事情を学習  
英語でのプレゼンテーションを実施、出発直前には合宿も実施

**現地での研修**

- ・グローバルな視野で自らの進路考える機会を与える
- ・企業訪問等で訪問国の経済事情を体感する
- ・現地で働く卒業生によるキャリア研修で社会で必要とされる能力とは何かを学ぶ
- ・学んだ英語でコミュニケーション能力を発揮する

**事後学習**

- ・帰国後は、研修で学んだことを英語でまとめ、リサーチ・レポートを作成し、提出する

26

マンチェスターでやっている海外インターンシップですけれども、もう少しいろいろな形で考えられないだろうか、もうちょっと拡充できないだろうか、あるいはもうちょっといい形のインターンシップはないだろうか、ということで、様々なところで調査をしております、その中でいいものが出てくれば、海外インターンシップのなかにそのプログラムを取り入れていきたいと考えております。どうも日本のインターンシップと海外のインターンシップはかなり違うようでございまして、日本のインターンシップというのは、なんだかお客さんのように、学生がアルバイトのように少しだけ仕事をかじるようだというのですが、海外のインターンシップは、本当に一人前の社会人として同じようなことを同じようにさせるというわけですね、返ってきた学生さんたちに聞きますと。だからこの海外インターンシップというのはものすごく力が付く。英語の力も無ければならないわけですが、社会人としての自覚といいますか、仕事に対する責任といいますか、それは国内のインターンシップとはかなり違う。こういうようなことを学生さんたちは感想として教えてくれております。海外キャリア研修というのは（スライド26）、ただ単純に海外に行くというわけではなくて、約25時間の事前研修を実施しております。グループリサーチを実施して訪問先の企業や訪問先の国の経済事情を学習する。そしてその上で一人ひとりが英語でのプレゼンテーションを実施致します。出発直前には、1泊2日の合宿もやっております。こういう形できちんとした準備をした上で海外に行くということです。現地での研修は、「グローバルな視野で自らの進路を考える機会を与える」、「企業訪問等で訪問国の経済事情を体感する」、「現地で働く卒業生によるキャリア研修で、社会で必要とされる能力とは何かを学ぶ」。そして、「学んだ英語でコミュニケーション能力を発揮する」。こういうような形で、現地で様々な企業に行かせていただいて、そこでの説明を聞いて、英語でのクエスチョンアンドアンサーですね、色々な討論をするという形

**取組④：国内・海外インターンシップの概要**

**国内インターンシップ**

- ・単位化されているインターンシップの受講者数を拡充する

**海外インターンシップ**

- ・経済学部では、2006年よりイギリス・マンチェスター大学と提携し、海外インターンシップを実施している
- ・現地での研修と就業体験がそれぞれ4週間(計8週間)のプログラムであり、他学部へも開放している

**27**

既存の取組の拡充および数値目標

**28**

をとっております。帰国後に、事後学習として研修で感じたものを英語でまとめてリサーチペーパーを作成し提出する。こういう形でキャリア研修を完結させていくというシステムをとっております。これが海外キャリア研修の概要でございますが、さらに国内インターンシップでは単位化されているインターンシップの受講者を拡充していきたい（スライド27）。2006年から実施している海外インターンシップ、このマンチェスターのインターンシップがもう少しなんとかならないかな、というようにも思っております。ただこのマンチェスター・インターンシップもかなり厳しいもので、現地での研修と就業体験がそれぞれ4週間ございますので、非常に力が付くプログラムです。このマンチェスター・インターンシッププログラムというのは、実際には他学部の学生のみなさんにも参加して頂いておりまして、今年の場合は、半分が経済学部で、半分が他学部の学生さんでございます。そういう意味で、いろいろな形で他学部の学生の皆さんにも開放しておりますのでぜひとも利用して頂ければ、というふうに思っております。

さて既存の取り組みの拡充と数値目標です（スライド28）。これまでの取り組みで、学問へのリンクということで（スライド29、30）体系的な経済学の専門教育、それから初年次の導入科目ですね、基礎ゼミを中心とするものです。また、数的処理能力の科目を設定し、アカデミックスキルの教育を充実させる。成績不振者の面談による留年者の減少を計り、特に3年生になりますと後期にゼミ生対抗研究発表大会というのをやっておりまして、これがまた学生の皆さんがこの研究発表大会に燃えてですね、だいたい3年生のはじめくらいからゼミの中で、とにかくいろいろな研究をもちよって、ゼミのなかでまずコンペティションがある。ゼミのコンペティションで勝った人たちが学部発表大会に出てくる。そういうような形で、学生の皆さん、一所懸命に自発的な勉強をしております。これはなかなか力を付けるのに良いシステムかな、と思

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充①：学問へのリンク

これまでの取組

- 体系的な経済学専門教育
- 初年次導入教育
- 数的処理能力科目
- アカデミック・スキル教育の充実
- 成績不振者面談による留年者減少
- 3年後期「ゼミ生対抗研究発表大会」

29

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充①：学問へのリンク

【数値目標】

- ・ミクロ・マクロ中級科目の履修率80%以上
- ・経済数学入門履修者80%以上
- ・統計関連科目履修者60%以上
- ・数学プレースメントテストの高校生レベル以上75%以上
- ・ゼミ対抗論文発表大会等の参加率80%以上
- ・成績不振者の割合10%以下

30

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充②：世界へのリンク

これまでの取組

- 英語力を伸ばし国際社会で、高い水準で読み、書き、語る「グローバル・リテラシー(国際対話能力)」をもった人材を育成
- 英語で経済学を学ぶIP (International Program)、海外企業を訪問する海外研修、海外インターンシップを展開
- 学部として英語圏の短期留学生を積極的に受け入れ、留学生と日本・アジアの経済を学ぶJAS(Japan-Asia Studies)を実施

31

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充②：世界へのリンク

【数値目標】

- ・卒業生のうちTOEIC900点以上25人以上
- ・800点以上(900点以上を含む)50人以上
- ・JASを履修する留学生数50人以上
- ・海外インターンシップの参加者25人以上
- ・海外キャリア研修の参加者100人以上

32

っております。学問へのリンクでこれまで取り組んできたこととございます。数値目標はいろいろな形で履修率の向上等を示してあります。

世界へのリンク（スライド31、32）。英語力を伸ばして、国際社会で高い水準で読み書き語る、グローバルリテラシーをもった人材を養成したい。英語で経済学を学ぶIP、海外企業を訪問する海外研修、海外インターンシップを展開する。それから学部として英語圏の短期留学生を積極的に受け入れて、留学生と日本アジアの経済を学ぶ、JASを実施する。これがこれまで取り組んできたものであります。これに加えて、これまでの取り組みについて、さらに数値目標を掲げてみました。特に、卒業生の内で、TOEIC900点以上をなんとか25人以上輩出したい。こう思っております。800点以上は50人以上だと、こういう決意で取り組もうと思っております。それから、JASを履修する留学生の数を50人以上にしたい。海外インターンシップの参加者を25人以上、海外キャリア研修の参加を100人以上、というような形で数値目標を設定いたしました。

3番目の仕事へのリンクですが（スライド33、34）、学生生活ポートフォリオを経

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充③: 仕事へのリンク



### 「学生生活ポートフォリオ」を経済学部は、2009年から(全学は2010年から)実施

- ・1年次の必修科目「基礎ゼミ」で4年後のキャリア計画を作成
- ・各セメスター、各週の生活の計画、振り返りを行ってきた
- ・今回の取組の下地として積極的に活用する

33

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充③: 仕事へのリンク



### キャリア科目への参加

- ・国内・海外のインターンシップ
- ・海外キャリア研修の実施と単位化をさらに進めていく

### 学生アシスタント

- ・アドバイスと面談の質の向上に努める

34

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充③: 仕事へのリンク



### 企業関係者を交えた講義の実施

- ・オムニバス形式の仕事と経済学をリンクさせる授業を展開してきた
- ・「世界経済事情」「Business and Japanese People」では国際社会貢献センター(ABIC)から、「資本市場と証券投資」では野村証券から講師を招いている
- ・他の専門科目でも、企業関係者をゲストスピーカーとして招聘していく

35

既存の取組の拡充および数値目標  
拡充③: 仕事へのリンク



### 【数値目標】

- ・3年次夏期休業終了時までのインターンシップ・海外キャリア研修参加率 50%以上
- ・キャリア科目の履修率80%以上
- ・企業関係者をゲストに迎える講義(財政学、金融論など)専門科目で5講義以上

36

経済学部は2009年からずっと導入しております。特に1年次の必修科目である基礎ゼミで4年間のキャリア計画を作ってもらって、各セメスターで各週の生活の計画・振り返りを行ってまいりました。次年度も積極的に使って、自分のタイムマネジメント、あるいは自分のキャリアの計画、というものに活用できたらな、というように思っております。

更に、キャリア科目への参加、学生アシスタント、いわゆるSAですね。こういう人たちをいろいろな形で活用していきたい。特にSAは後輩の面倒を見るのですが、後輩の面倒を見ることによって付く力というのがあって、SAの人たちの力が伸びている、というところに私達、非常に喜びを感じております。

また企業関係者を交えての講義の実施(スライド35、36)、ということで、現在も「世界経済事情」、「Business and Japanese People」、ということで、国際社会貢献センターの先生たちに教えていただいております。この機関は、企業を退職された方々で構成されており、かなり専門的知識を持った方々を中心としたものでありますが、そこで具体的な実社会の話を聞いてもらっております。

実施体制と評価方法であります（スライド37、38）、本学では学長の元に、現在は全学キャリア委員会ができておりまして、全学キャリア委員会の元で様々な就職関係、あるいはキャリア関係についての議論がなされており、多分各学部の先生方もお聞き及びだと思いますが、様々な具体的な数値目標を決めようと、というようなことが今全学で始まっております。キャリアセンターとも連携を取りながら、就業力 GP を具体的に実施、実働していくのが経済学部のカリヤ委員会ということになります。7名の先生方に参加して頂きまして、ここで様々な検討を加えております。先程申し上げました、仕事のための就業力のテストとか、適性検査のテストなどについても、

37



いろいろと検討を加えているところでございます。事務主幹は経済学部事務室にやっていたいておりますし、キャリアセンターの3名の職員の方々もこのキャリア委員会に参加していただき、具体的な方策を相互に交換をしあいながら、進めていく方向になっております。最終的には外部評価委員の方々を決めさせていただいて、外部評価委員の評価を受けたい、というように思っております。

評価方法、最終報告の作成でございますが（スライド39）、就職率の改善と取り組み全体の数値目標の達成状況の検討。それから、更なる改善策を作成し、学外に公表していきたい。いわゆるPDCAサイクルですね。その循環をきちんとさせていきたい。取り組み期間終了後も、外部評価委員の評価は継続して受けてまいりたいと思います。そして更に、学生の学部教育改革に取り組んでまいりたいと思います。いろいろなカリキュラムの問題、その他さまざまな問題を経済学部の教員一丸となって議論をして、改革に取り組んでいく決意しております。

評価方法のもう一つですが（スライド40）、これは統計的な分析と追跡調査も実施したいと思っております。2015年3月に卒業を予定している方々を対象に、就業力の獲得に関するアンケート調査を行おうと考えております。つまり今年度の1年生ですね。今年の1年生から実際にはパイロットケースを始めていきますので、その人たちがどういう形になっていったのかという追跡調査をしていきたい、と思っております。この追跡調査というのは、卒業段階でのアンケートも行うわけですが、できれば卒業した後も、社会でどのような活躍をしているのか、

#### 評価方法

創価大学

- ・ 最終報告の作成（最終年度）
  - － 就職率改善と取組全体の数値目標の達成状況の検討
  - － 更なる改善策を策定し、学外に公表
  - － 取組期間終了後も、外部評価委員の評価は継続して受ける
  - － さらに学生の学部教育改革に取り組んでいく

39

#### 評価方法

創価大学

- ・ 統計的な分析および追跡調査の実施
  - － 2015年3月卒業予定者を対象に、就業力の獲得に関するアンケート調査を行う

40

#### 評価方法

創価大学

- ・ 外部評価委員
  - － 他大学の関係者2名
  - － 企業関係者2名
- ・ 就業力育成についての観点をより重視した外部評価を受けていく

41

何をやっているのか、というのもできれば調査をしていきたいと考えております。外部評価委員につきましては他大学関係者の2名、それから企業関係者2名にお願いをしようと思っております（スライド41）。就業力育成についての視点をより重視した外部評価を受けてまいりつもりでおります。

5. 今後のスケジュール

今後のスケジュールを最後にお示ししたいと思います（スライド42、43）。2010年度、これは今年度ですけれども、今年度の1月にサンプルテストを実施致します。それから、カリキュラムチェックリストの作成。作成は既に行われているのですけれども、その見直しですね。見直しのために先進的な事例を持っている大学、研究機関等の視察を行ってまいりたい。それから来年度、2011年度は「社会貢献と経済学」、これを開講したい。さらに就業力測定テストのパイロット版を実施致したい、と思っております。また高等教育の専門家と各教員の面談、及びカリキュラムチェックリストの改定、マイマップシステムの開発などを予定しております。

2012年度にはこの10年度・11年度でやってきたことをより具体的に実施していくということで、進路の仮決めのための就業力測定テストを実施したい。ここまでに、先程お話ししましたように、私達が不安に思っていたり、なかなか上手くいかない、と思っていることが、なんとかクリアでき、きちんとした就業力テストができればいいな、と思っております。その上で、マイマップシステムの導入を図ってまいりたい。2013年度には中間報告を公表しまして、仮決め制度を全学に展開できればと考えております（スライド44）。就職問題、就業力問題というのは、なにも経済学部に限った問題ではございませんので、これについては全学に展開をする。そもそも就業力GPと

42

今後のスケジュール

43

取り組みの全体スケジュール

2010年度	サンプルテスト実施	CCLの作成および先進事例模倣	
2011年度	「社会貢献と経済学」開講、「就業力測定テスト」パイロット版を実施	高等教育専門家と各教員の面談およびCCLの改訂	「My Map」システムの開発
2012年度	進路の仮決めのための「就業力測定テスト」実施	「My Map」システムの学務導入	

いうのは元々やはり全学で取り組むもの、ということで想定されているようで、今回は経済学部がパイロットケースということで始めている訳で、経済学部でやってうまくいった点、上手いかなかった点、こういうの見直して全学に展開をさせていただけたらな、と思っております。そのあと14年度・15年度には就職状況の総括と最終報告の公表という

ことで、この全体の取り組みを終結、まとめていきたいと思っております。

最後にお知らせですけれども、就業力 GP でフォーラムを考えております。就業力を考えることで来年1月19日の2時半から、これは8階の会議室で外部から講師を招いて、就業力に関する講演をお聞きたい。講演というか研究会というか、勉強会にできたらな、と思っています。この開催の意義は、ここまで使ってきた「就業力」という用語ですけれども、実際に人によって全然捉え方とかイメージが違うのですよね。学部によっても違うと思います。そういう意味で、みなさんで就業力という概念を共有しようではないか、どういう事が就業力なのか、これをまずしっかり踏まえた上で、来年度からの取り組みを進めていきたいと思っております。できうる限り、参加者との意見交換を行って創価大学としての就業力とは何かを考える場としてまいりたい、と思っております。

## 6. 終わりに

早口で説明してまいりましたが、以上で経済学部の取り組みの報告とさせていただきますが、最後に一つ。実際にこの就業力 GP は始まったのですけれども、ちょっとお耳に入っている方もいらっしゃると思いますが、民主党の最も目玉である仕分け事業のなかで、就業力 GP が廃止ということになっているのですが、文部科学省の方々にお聞きしますと、何とか復活させる、ということで取り組んでいらっしゃるようです。就業力 GP もいろいろとスイングをしている最中ですが、我々としてはそれに関わりなく、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。大変にありがとうございました。

